

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190200311		
法人名	株式会社 ケーサポート		
事業所名	グループホーム ユキササの家		
所在地	札幌市東区北16条東3丁目1番50号		
自己評価作成日	平成26年9月10日	評価結果市町村受理日	平成26年10月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kounyou_detail_2013_UZZ_kani-tue&amp;JigyosyoCd=0190200311-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kounyou_detail_2013_UZZ_kani-tue&amp;JigyosyoCd=0190200311-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さんの思いや行動を大切にしています。一人ひとりのできる事・得意な事・好きな事・苦手とされる事等に応じて、個性と力を発揮できるように、入居者さんが主人公であることを一番に考え支援しています。その為には、意向や情報の把握に努め、実現のために創意工夫し、日頃の活動や会話に取り入れています。役割や楽しみをもって暮らして頂けるように、その方に合わせた声かけや場面づくりをし、一般的な家庭と変わらない雰囲気づくりをしています。入居者さんと職員はもとより、入居者さん同士の関わりも大切にしています。原因追究やタイミングを大切にしていますが、排泄に関しても、原因に沿ってタイミングを考え、トイレで排泄できるように支援しています。また、ご家族や地域の方々にも親しんで頂けるような『家』でありたいと思い、交流を大切にしています。『ユキササの家』を紹介させて頂き、認知症ケアを伝えていきたいと思いで、ご見学ご相談対応や、実習生さんの受け入れを積極的に行っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 9 月 26 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでもどなたでも目にするのできるリビングに掲示し、理念を意識してホーム全体で取り組んでいます。笑って過ごして頂けるように、より良い支援を日々考え、迷った時には理念を再確認しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方からお気づきの点を教えて頂き、改善に向けて取り組んでいます。町内会のゴミ拾いやお祭り、買い物、回覧板などを通して、地域とつながりのある暮らしを続けられるようにしています。また、近隣の保育園や学校と交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご見学に来られた方や、実習生の方、ボランティアの方、保育園の方との交流や、運営推進会議、避難訓練等で地域に開かれたホームづくりをしています。またホーム外での活動を心がけ、入居者さんと地域の方がふれあえる機会を大切にしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	認知症ケアに関する考え方や支援方法、成功例や失敗例をお話しさせて頂いています。関係機関の方のご参加を頂き、ご家族の方も参加して下さいましたが、今後、会議の内容を充実させていきたいと考えています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	顔が見える関係づくりを大切に、関係機関へ直接お伺いするようにしています。支援方針や最近の出来事等をお伝えさせて頂き、ホームの様子をお伝えしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束虐待廃止委員会を設置しています。課題や危険予測について話し合い、入居者の行動を止めないケアを大切にしています。言葉の拘束にも留意し、入居者のしたい事を尊重したケアを行い、安全にも気を配っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束虐待廃止委員会を設置しています。否定・訂正・止めるケアを行わないように、日頃の接遇を振り返り、職員同士意識して取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人に必要な制度を活用できるように、関係機関の協力も頂きながら、必要書類の準備等スムーズに進むように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書と併せてご説明させて頂き、ご理解ご納得を頂いた上で、同意を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の様子や受診結果をご報告する際、ご家族のご意向をお伺いし、必要に応じて関係機関へつなげています。今後も、お伝えするだけでなく、ご本人やご家族が思いを表現しやすいように努めていきます。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の会話やミーティングで出た意見を実現できるように、一緒に考え取り組んでいます。日常的にも不安や疑問があれば、相談できる体制となっており、面談では個別に意見や要望をきいています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務・ミーティング・行事等、必要に応じて勤務時間の調整や手当の支給があります。研修や専門図書購入の希望を受け、学ぶ機会と向上心につなげています。H26年9月には介護福祉士の給与を見直しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で課題となっている事を勉強会のテーマにしたり外部研修の機会を設け、学んだ事をチームで共有できるようにしています。今後、個人の課題や目標に合わせ外部研修計画を立てていきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームのお祭りへ参加させて頂き、他のグループホームを知る機会をつくっています。連絡協議会で交流の機会をつくり、日々の支援や業務に役立てるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と直接お会いさせて頂き、言葉・表情・動きからご本人のしたい事や困っている事等を受け止められるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向や困っていること、介護や医療に対する意向を聴かせて頂き、ご家族が思い描かれている暮らしに近づけられるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	好まれる環境や過ごし方を聴かせて頂き、初めての環境であっても緊張をほぐせるように、ご本人やご家族が好まれる環境と交流の機会づくりをしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何かする時には、“やりたい”と思って頂けるような声かけや場面づくりをし、生活の場で一緒に過ごしながら一人ひとりの希望・もっている力・やりがい感に合わせ支援しています。ゆったりと休まれる時間も一緒に過ごし、いろいろな話しができるようにしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より、連絡や報告ができる関係づくりを心がけています。来訪時には、日々の様子や変化をお伝えし、ご家族のご意見やご協力を頂きながら、入居者さんを支える体制づくりに努めています。来訪された際は、ご本人とご家族の時間を過ごせるように、お手伝いさせて頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者さんに贈られてきた物があると、お礼のお電話やお手紙を書く機会をつくり、気持ちを大切にしながら心の通い合える機会を大切にして支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん一人ひとりの性格や、他の方との関係、その時々のお気持ちに寄り添って、過ごしやすい場hそや活動の場をつくっています。入居者さん同士の会話に耳を傾け、時にはつなぎ役となり、入居者さん同士の関わり合いを大切にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在の心身状態を考慮しながら、望まれる暮らしをできるように、必要に応じて情報提供やご相談させて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話・表情・行動・生活リズムから“～したい”を聴き逃さず、その“～したい”を実現できるように取り組んでいます。大きな計画だけでなく、日常生活の中でも“～したい”を実現できるようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や、その時の状態に応じた対応など、現在の暮らし方も併せてチームで話し合い、これからの生活支援につなげています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その時々会話・行動・様子を記録に残し、全職員で把握しています。その日の心身状態を把握した上で、その日できる事や、その日の過ごし方を支援しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、ご本人の生きがいになっている事や課題になっている事を記録に残し、さまざまな視点でアイデアを出し合っています。ご家族の意向もお聴きし“入居者さんの今”に合った介護計画が作っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の様子だけでなく、その時の状況や対応の方法も記録に残す事で、支援のヒントや介護計画の見直しにつなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画に載っていない事でも、入居者さんの“～が食べたい”“～に行きたい”という想いに柔軟に対応できるように、実現に向けての方法をチームで相談し対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者さんが喜ばれる地域行事の情報と、車椅子や歩行する際の移動環境についても情報収集し、地域で暮らす楽しみの機会をつくっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を決める際や専門科受診の際は、ご本人やご家族の希望をお伺いしています。受診時には医療機関へ状況報告し、その結果をご家族へご報告させて頂き、連携を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム職員の看護師に、日常で気付いた心身状態の変化を報告し、対応を話し合っています。多職種による視点観点をまとめ、必要に応じて医療機関へ相談・報告できるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日頃の様子と、ご本人ご家族が希望される治療方針をお伝えしています。入院中は、ご家族・医療関係者・管理者・ホームの看護師・ケアマネージャーでカンファレンスを行い、早期退院に向け取り組んでいます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に最期についての考え方や意向をお伺いしています。また、時間の経過・状態の変化に合わせ、その都度お伺いしています。主治医や看護師にアドバイスを頂きながら、ホームでできる事に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習受講の他、緊急時対応マニュアルを作成し、落ち着いて判断・行動できるようにしています。ミーティング時や朝礼時に、対応法について確認・学習しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間・地震の想定で避難訓練を行い、地域の方や消防団の方々と協力体制を築いています。訓練後には、ご指導ご意見を頂き、次の訓練に活かしています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の意思を尊重し、誇りやプライドを損ねない言葉づかいと対応を心がけています。ご本人に声をかける時や、職員同士その場で情報交換する時など、プライバシーに配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	促し支援する場合であっても、ご本人が自ら行動したくなるような声かけの工夫をしたり、服や飲み物を選んで頂く機会をつくっています。意思表示の難しい方には、答えやすい聞き方をしたり、表情や様子から思いをくみとれるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者さんが何をしたいのか、何をしようとしているのかを観察し、好きな事や興味のある事をできるように支援しています。その他にも、職員間の情報共有や連携を大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方が好む、その方らしいおしゃれを楽しめるように、化粧道具・スカーフ・帽子・マニキュア・装飾品・外出着を身につけ、生き生きとした生活を送って頂けるように支援しています。おしゃれに関心をもって頂けるように、着ている服の話題づくり等もしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方のできる事や得意な事に合わせ、ご自身より“やろう”と思って頂ける雰囲気作りを心がけています。準備や後片付けの動作が難しくとも、入居者さんご本人が名付けた『味見の会』に楽しく参加されています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	内容やタイミングをご本人に合わせて、摂取して頂けるように支援しています。主食はお粥やパンを用意し、副食は大きさや硬さを工夫しています。嫌いな物や苦手な物がある場合は代替食を用意したり、摂取量が少ない場合は栄養補助食品を用意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	タイミングや雰囲気を大切にしながら、ご本人が嫌悪感を持たないでできるように支援しています。ご本人の力を活かして行って頂き、歯科医や歯科衛生士のアドバイスを基に、仕上げの確認をさせて頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツやパットの使用を検討する時は、ご本人の排泄状況や職員の関わり方を見直す事から始めています。トイレの場所がわかりやすい環境づくりや、トイレに行ってみようと思って頂けるような声かけをし、トイレで排泄できるように支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事メニューの工夫や、乳製品、水分摂取、運動、お腹のマッサージで排便できるようにしています。下剤を服用して頂く時は、状態に応じて服用量を調整し、下剤に頼らないようにしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	“お風呂に入りたい”と思って頂けるような声かけやタイミングを工夫しています。午前・午後にとらわれず、ご希望や状況に応じて入浴できるようにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝・起床・お昼寝は、その方の生活習慣や体調など、ご本人のペースを大切にして関わらせて頂いています。夜眠れない方には談話して安らいで頂くなど、安眠につながる対応をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴と、薬の効果・副作用を把握し、一人ひとりの変化に注意しながら、経過を観ています。変化があった時には、看護師や医療機関へ報告し、安全な暮らしの確保に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なこと・好きなことを維持した生活ができるように、家事活動・余暇活動の中でできるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事計画の他、「帰りたい」「ラーメン食べたい」「外いいね」などの言葉を大切に、その時の思いを実現できるように外出の機会をつくっています。ドーナツの広告を観て「美味しそうだね」と話された思いも叶えられるように支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持って安心したいという方には、所持できるようにし、買い物や残金確認の支援をしています。ご自身で所持していない方も買い物を楽しんで頂けるように、事務室でお預かりし“お金あるかな？”というご心配なく買い物や外出を楽しんで頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご親族やご友人からお電話がきたり、贈り物のお礼に、お電話をする機会をつくっています。手紙は、一緒に切手を買に行ったりと、準備の段階からご本人ができるように支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日にちがわかりやすいように、カレンダーの工夫をしたり、トイレや居室の場所がわかりやすいように、表示の工夫をしています。季節の花や、季節の行事にちなんだ飾りを、皆さんで作って飾り、自然風や自然光が入るようにして、季節感を出しています。普段、皆さんが口ずさむ歌をかけ、居心地良く過ごして頂ける雰囲気づくりなどもしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員は入らず入居者さん同士だけの時間、職員も一緒の時間、お一人の時間を過ごして頂けるように、ソファの配置や居場所に配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物やお好みの物を置いて頂き、ご本人の居心地の良い環境が保たれるよう、ご本人ご家族にご相談して配置しています。身体の動きに合わせて動線を確認し、配置換えを検討しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋の表示の他、台所の引き出しに何が入っているかわかるように写真を貼り、わかりやすい環境づくりをしています。移動箇所には手すりがあり、居室ドアや押し入れ前にも手すりがあるので、安全に開閉できる環境になっています。		